

# 令和 2年度予算見積調書

課室名：河川砂防課  
 担当名：中川・綾瀬川流域担当  
 内線：5138 (単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
B31	放水路活用浸水対策費（県単）			一般会計	土木費	河川費	河川改良費	河川改修費	
事業期間	平成30年度～ 令和 2年度	根拠法令	河川法第9条	宣言項目		03	大地震など危機への備えの強化		
				分野施策		020518	治水・治山対策の推進		
<b>1 事業概要</b> 近年頻発化する豪雨や台風の大型化に対し、既存の河川施設である放水路を有効に活用し、河川の洪水流量を調整することによって浸水被害の早期軽減を図る。 (1) 放水路活用浸水対策費 120,000千円				<b>5 事業説明</b> (1) 事業内容 本川である中川と幸手放水路の分派点において、越流堤等の分派流量調節施設を設置し、幸手放水路への流入量を増加させ、洪水初期から中川上流排水機場を最大限稼働し、江戸川への優先的な排水を行う。 ・対象河川：中川（幸手放水路） ・測量業務：幸手放水路や中川の能力を最大限活用するため、現況の堤防高さ、幅、流下能力等を詳細に把握する。 ・設計業務：効率的に幸手放水路に流量を分派させるため、施設の計画、種類や費用の比較検討及び詳細な設計などを行う。 効率的に幸手放水路から江戸川へ排水するため、中川上流排水機場の操作規則の見直し及び幸手放水路の改良検討などを検討する。 ・施設整備工事：分流堰ゲートの製作、設置及びそれに伴う躯体工事などを行う。 中川上流排水機場の排水能力を最大限活用するため、幸手放水路の河道掘削などを行う。 ・効果検証業務：分流堰稼働後に洪水時の中川の水位を観測するなどし、水位低下の効果を発現しているか検証する。 (2) 事業計画 ・平成30年度 測量業務、設計業務および施設整備工事 ・令和元年度 施設整備工事 ・令和 2年度 施設整備工事、効果検証業務 (3) 事業効果 既存放水路を有効に活用し、本来であれば、中川本川の整備が完了しなければ防ぐことができない下流域の浸水被害を、早期に軽減する。 (4) その他 過去の実績 平成30年度 令和元年度 (単位：千円) 700,000 250,000					
<b>2 事業主体及び負担区分</b> (県 10/10)									
<b>3 地方財政措置の状況</b> 緊急自然災害防止債 充当率 100% 交付税措置 70%									
<b>4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員</b> (1) 事業に係る人件費 9,500千円×0.6人=5,700千円 (2) 組織の新設、改廃及び増員 なし									
				財 源 内 訳					
予算額		県 債					一般財源	前年との 対比	
決定額	120,000	120,000					0	△130,000	
前年額	250,000	250,000					0		